

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成29年度 第1回 川西市青少年センター運営委員会		
事務局 (担当課)	教育推進部 青少年センター 内線(4500)		
開催日時	平成29年6月27日(火) 10:00~11:30		
開催場所	学校教育室 研修室		
出席者	委員	牛尾 巧、大崎淳正、米田公子、矢野孝雄、中田鞠子、 中井成郷、澁野敏彦、若生雅史、上中敏昭、木下 博	
	事務局	岸 敬三、西門隆博、三木貴仁、野坂比佐子	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部可	傍聴者数	2 人
傍聴の不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	開会 1. 運営委員の委嘱について 2. 会長あいさつ 3. 協議事項 (1) 平成29年度 川西市青少年センター事業 (2) 平成29年度 夏季特別補導強化期間実施要領 川西市歳末青少年補導活動実施要領 4. その他 閉会		
会議結果	協議事項は(案)どおり了承		

1、運営委員の委嘱

運営委員会の冒頭に就任された委員に運営委員会会長の 牛尾 巧教育長から委嘱辞令が交付された。

2、会長あいさつ

おはようございます。本日はそれぞれの立場でこの会にご出席いただき、ありがとうございます。全国的に少子高齢化と言われています。本市も65歳以上の高齢化率が40%を超える地域も出てきて、市内の平均でも30%を少し超えたぐらいとなっています。全国的にも0~14歳がおよそ16万~17万人減っていき、15~64歳の生産年齢が110以上減少しているという現状があります。市として児童や乳幼児に対する医療費の助成など、また新婚など若い世代への助成制度を、市を挙げて作って対応しているところです。

現状としては、5月1日現在で本市の小学生が8069名、5年前の平成24年には8805名でしたから、736名減っています。各小学校とも4~50名、中学生、園児ともに約200名が減っていることとなります。逆に、保育所では待機児童の関係がありますので、90名ほど増えていて待機児童の解消に向けて動いているところです。

平成4年から青少年センターが設立され、今年で26年目となりますが、お手元の概要18、19ページにもありますように、こども110番のおうちは1692件の民家にも応援いただいておりますが、なかなか家におられないこともありますので、コンビニは川西市内に40カ所近くありますので、重点的にご協力してもらいたいと思っています。また、19ページをご覧ください。時間的には14時から16時などの放課後が子どもの狙われる時間となっています。

今日は29年度の1回目の運営委員会となりますが、それぞれの分野でつながりを含めてお話をいただき、よりよい青少年の健全育成にご協力いただきたいと思います。

それではここで、新しく委員になられた方から一言、自己紹介がてらご挨拶をお願いします。

(委員)

今期から委員となりました。青少年補導委員自体はもう15~6年していますが、会長となったのは今年初めてです。これからもご支援のほど、よろしく願いいたします。

(委員)

今年から中学校校長会の生徒指導担当になりました。青少年センター、青少年補導委員会が様々な仕事をしているのはよく理解しています。これからも地域と協力してやっていきたいと思っています。

(会長)

それでは事務局の方から協議事項1についてお願いします。

3、協議事項

〈事務局説明〉

(1) 平成29年度 川西市青少年センター事業

地域安全パトロールの充実

園児・児童及び生徒の安全確保の実施

「学校安全協力員」「こどもをまもる110番のおうち」の拡充

青少年補導委員による補導活動の推進

【質疑応答】

審 議 経 過

No. 2

(会長)

協議事項（１）について事務局より説明がありましたが、それぞれの立場で各委員から意見がありましたらよろしくをお願いします。

(委員)

児童生徒の支援は多岐にわたっていて大変だと思っている。昔は青少年の喫煙、暴力など目に見える問題行動だったが、今は見えない。４人に１人がひきこもりと言われていて、現状でどうやってそちらに接触をしていくのか。センターの活動と違うところがあるかもしれないが、教えていただきたい。また、他機関と連携しているとかいうのがあれば、それも合わせてお願いしたい。

(事務局)

中学校を卒業する時点では、ほとんどの生徒が進路を決定していますが、進路先で辞めたり進路変更したりするケースがあります。そういった場合は、相談場所としてこども若者政策課が担当となりますが、連携が不可欠です。今年から中高生徒指導連絡協議会にも、こども若者政策課に参加してもらっていて、現状を掴んでもらっているところです。

(委員)

マスコミでもよく報道されていたが、スマートドラッグなどによる薬物の問題もある。ネットで個人的に購入する場合、実態がつかめない。ネットを正しく使うということを啓発していく必要がある。また、新しい薬物の把握の必要もあると思うが、県との連携はどうなっているのか。

(事務局)

以前、川西にも２店舗あったが、当時の青少年センター職員や補導委員が、警察などと一緒に店を訪れて指導するなどした結果、店を閉めたということがありました。県全体の連絡会でもインターネットでの購入などの状況を聞いたりしてるが、最近は大麻の方がじわじわと広がっていて、１０年ぐらいの周期で流行っていると聞いています。最近川西でそういうことがあったとは聞いていません。

(会長)

他にご意見はありませんか。学校現場ではどうですか。

(委員)

問題行動の数として見える行動、例えば深夜徘徊、喫煙、蝟集、暴力などは減っているが、見えない部分が大きくなっている。例えばSNSやネットで友人関係が広域になり、２４時間つながりっ放しになっている状態で、子どもがそのしがらみから不安定につながる場合がある。ケータイなどは学校では不要物扱いなので、どうしても登下校時に必要だということであれば保護者からの申請のもと、登校している間は学校で預かっている。保護者と連携をとりながら対応している現状がある。ネット上の問題があった場合、学校も知らんぷりはできない。川西警察、阪神北少年サポートセンターと連携しているが、保護者も含め学校と青少年センターとも連携をとって対策をとっていきたい。

(会長)

小学校ではどうですか。

(委員)

ネットやケータイの問題に関しては、市教委で隔年で小５、中２で現状を把握するためにアンケートをとってもらって対応している。小学校では協力員の拡充という部分で、緑台地区は地域が熱心に活動してくれているが、高齢化ということもあり「今年で最後」と言われたり、１１０番のおうちも「遠慮します」などと、辞退されることがめずらしいことではなくなっている。拡充というのは難

しい視点だと感じている。

(会長)

ほかにご意見ありませんか。

(委員)

センターの人数が増えることはないのか。

(事務局)

今年度はこれでやっていくことになります。今後については、業務のことなど合わせて相談しながらやっていきます。

(会長)

学校安全協力員もほぼ毎日してくださっている方や、家の近くでできる範囲でやってくださっている方いろいろありますが、高齢化の関係もあります。次の協議事項の中にもまた関係するので、協議事項2についてお願いします。

<事務局説明>

(2) 平成29年度 夏季特別補導強化期間実施要領
川西市歳末青少年補導活動実施要領

(会長)

協議事項1、2含めまして、ご意見だけでなく子どもたちの現状を教えていただけたらと思います。

(委員)

複合カラオケ店の後は何ができるのか、何か情報は入っているか。

(事務局)

商店と、カラオケ店が入るという話は、防犯協会から聞いています。

(委員)

またカラオケができるとなると、青少年のたまり場になる可能性があるなど。

(会長)

社会教育委員の立場で意見ををお願いします。

(委員)

社会教育委員以外の立場もあるので、いろんな立場から意見を言わせていただく。猪名川合同補導が毎年夏にあって参加しているが、他市との情報交換はとても大事だと思っている。カラオケがまたできるとのことだが、山下でハンバーガー店が出来る前はいろいろ懸念されたが、結局は心配するほどのことでもなかった。またカラオケができて、いろんな情報を得て対処しければいいと思う。多田のカラオケも、青少年のカラオケ離れが進んでいるからか、老人の憩いの場となっているとも聞いている。

(会長)

民生委員の立場でどうですか。

(委員)

先日定例会を開いたが、一時期より不登校の数が相当減っているので驚いた。家庭内のことについて言うと、ある男子生徒だが母親がタイの方で度々タイに帰るらしい。担任の先生も食事面など心配していて、見ていると弁当にはパンを買ってくる。夜ご飯はどうしてるのか聞くと、コンビニで弁当を

買っているらしく、先生も栄養の偏りがあるのではないかと心配されていた。私たちもどうやって見守ったらいいのかわからないので、先生にどうしたらいいか聞くと、頭の隅にでも置いといてくださいと言われた。また、ある家庭が子どもたちのたむろする場所になっている。たむろしている生徒は先生のほうで大体把握しているらしいが、母子家庭で昼間は母親が仕事に出ているので、家に誰もいない。同じような家庭の子どもが3～4人集まるのだが、そういった情報を聞いても遠くから見守ることしかできない。

(会長)

PTAはどうですか。

(委員)

地域でも青色回転灯を回して走っているのをみると、うれしいなと思っている。PTAは保護者の学びを充実していこうとことになり、サイバー犯罪や情報リテラシーなどの問題について、12月5日(火)郷土館で県警のサイバー犯罪対策課に来てもらって、子どものためにも学ぶことを学んで行こうとしている。不登校や引きこもり対策の話だが、社会福祉の会に出てきたら同じようなことを話していた。不登校、ひきこもり対策について、もしよかったら社会福祉とも連携をもたれてもいいのではないか。

(事務局)

社会福祉にも話を聞いて、どのような連携ができるのか、考えていきたいです。

(会長)

昨年度、こども若者政策実態調査、ニートや引きこもり、不登校を含めた調査を市で行いました。今分析を進めているところですが、ベースとしてこども若者育成支援計画を本年度策定していく。教育委員会事務局と社会健康福祉部で連携していくということになっています。

(委員)

義務教育が終わってからの青少年の進路変更や断念の話があったが、保護司会で活動する中で担当する子どもは進路変更した子たちが圧倒的に多い。どういう対策をしていったらいいのかと思う。どうもいわゆる役所仕事のような、枠から出られない、連携できない、単年度で解決しようとするなど、職員の異動もあるので仕方ない部分もあると思うが、神戸ではすでにやっているようにアウトソーシングを考えていかないといけない。引きこもりも市内いろんな場所にいるので、地に足をつけた活動にしていかないと。他の団体との連携会議など出ているが、丸投げして終わりの印象がある。ひきこもりは目に見えないから実態がわかりづらく、身近に捉えられていない。本人と保護者に寄り添っていないと思うので、他の団体とつなげていきたい。数年前に引きこもりの子たちのキャンプをしたこともあるが、そういうところに出て来れる子は引きこもりではない。コンビニに行くぐらいの感覚で居場所作りができないか。政策のなかでサポートセンターをつくるとかいう話があったと思うが、居場所というのは場所ではない。人とのつながりだと思う。フレキシブルにできるように思うが、まず場所を作って看板掲げて、というのは違うと思う。足元から見ていく政策が大事なのではないかと思います。

(委員)

教育推進部は義務教育に関わっていて、現場の先生方は子どもに手厚く関わっていると思う。中学校卒業の段階で100%近い子たちが進路を決めているが、実態として義務教育を離れてから問題を抱える子も多い。役所の中でどこをどうつながっていくのが大事だと思う。義務教育が終わっても、

切り口としては元担任とのつながりが大事だと思うので、子どもの居場所としての施設、さきほど話に出た人と人とのつながり、全て教育だけではないと思う。以前は、青少年センターは非行問題をどうするのかという部分だったが、今はぐっと中身が変わって一人ひとりの子どもたちにどう関わっていくのかになってきている。

(委員)

先程と全く同じ意見だが、今は引きこもりは保護者がアクションを動かさないと何も動かない。形をつくってもそこに行かないと物事が動かない。おせっかいな町として動いてもいいのかなとも思う。ニートや引きこもり、不登校などおせっかいな近所の人が声かけしていくのはどうかと思う。

(委員)

以前、不登校に対するケーススタディに参加した。その時、民生委員や福祉など参加していたが、傍から見ていたら「こことここがつながったらいいのに」と思った。当事者はテリトリーもあるし自分のことで手一杯なので、そういう発想がなかなかないのかもしれないが、周りからそういうのを言える人や、どこかから手を伸ばす人がいればいいと思う。不登校の子の保護者も、年々疲れてあきらめになっていく。保護者が疲れているから「自分から来なさい」はしんどいと思う。

(会長)

不登校や引きこもりなど、それぞれケース会議を持ったりしていると思うが、その関係について意見ありますか。

(委員)

学校の取り組みとしては、文科省のもと魅力ある学校づくりを進めている。全国で12万人不登校がいるが、不登校になりそうな子を食い止めようという政策。授業がわかれば、友人関係が楽しければ学校に足が向くだろうというもので、去年は東谷中がやっていた。今年から全ての学校が対象となっている。本校にも1年で不登校になりかけの子がいるので、いかに食い止めるかというのが大事になっている。

(会長)

非社会、不登校の生徒が増えているという現状があります。今までにも民生委員、SC、担任が連携をとっていたと思うが、それでは間に合わないのでSSW、地域も学校と一緒に動いていくことが大事になってきます。所管が違うが、就学前の乳幼児の虐待も問題になっています。これから先、複合施設として子ども若者政策課が中心となり、親の支援をしていこうということになっています。残り時間も少ないですが、ご協議いただいたらと思います。

(委員)

先程から聞いていたが、人間関係の構築は難しいと思う。自分も保育所に勤めているが、何か問題が起こった時に担任に言うより、長く勤めている者に相談してくる。小学校に上がっても、同じように相談してくる家庭もある。良く知っている人に聞いてもらうだけで安心する部分があるのだと思う。社会教育委員としては、気軽に行ける公民館というのを掲げている。地域の引きこもりの子に対してもそれぞれの地域に公民館があるので、気軽に行けて一歩でも外に出るきっかけになればと思う。

(会長)

A君が休んでいるよという近所の情報がなかなかもらえない関係をどうしたらいいかと思う時があります。近所に障害があり引きこもりの子どもがいる家庭があるので、会ったらお母さんに会ったら声をかけていますが、小さなコミュニティのなかでそういう家庭とどういう関係を作っていくのがいい

審 議 経 過

No. 6

か、解決や課題が見つけにくいですが、今後の制度を考えるきっかけにしたい。長時間ありがとうございました。今日いただいたご意見を参考にしながら、今後の事を考えていきたいと思います。

4、その他

次回は平成30年2月中旬開催予定

閉会